

原告団

遺族・CO裁
判、災害責任
追及、特集号
第百八十二号

原告団レポート けい肺患者—— 向井 芳雄さん

けい肺患者

今回は特に、同じ労災・職業病被災者として、ともに手を取り合っているけい肺患者にペンを向ける。

大牟田市上原町二丁目一三の菅原病院。

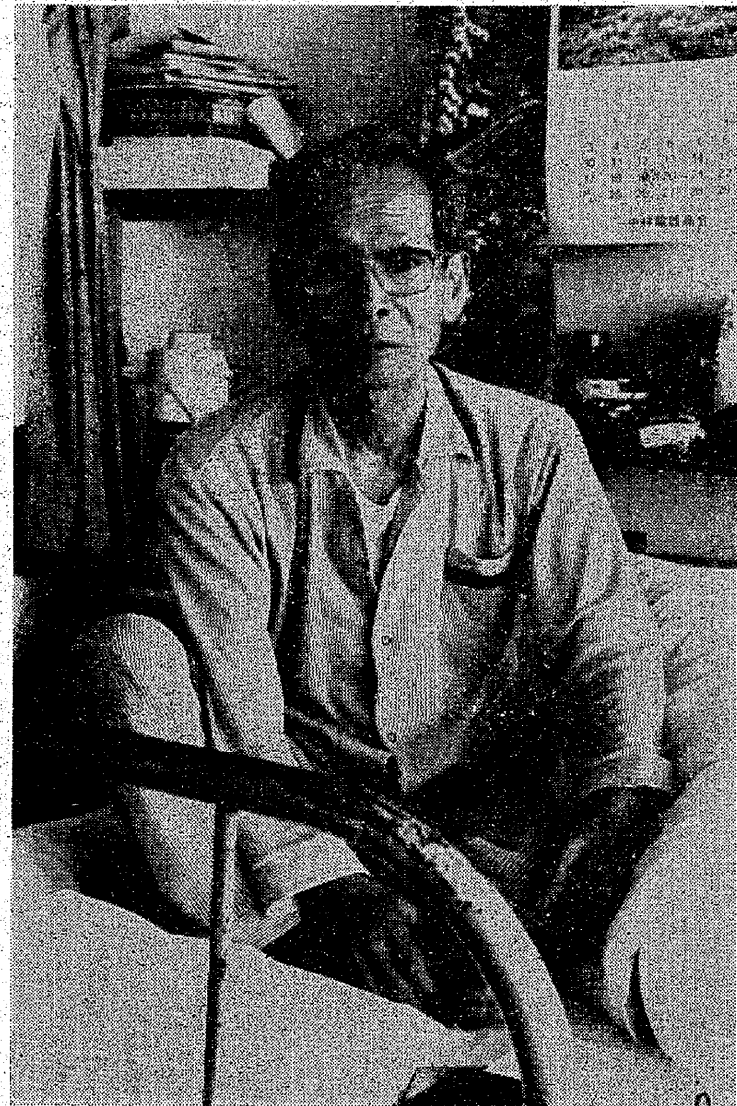
案内の窓口で聞いて三階へ。さらに並ぶ病室。

そのなかの一つ——三百二十二号室のドアを開けると、五月の太陽の日差しが射しこんでいる病室は、隅々までまぶしいほど明るかった。

三つづつ横向きに、二列に並んでいる六つのベッド。患者たちは思い思いに窓辺に寄りたり、ベッドに腰かけたりしながら、お互いに話など交わして過ごしていた。

たずねる相手——けい肺患者の向井芳雄さんの姿はなかった。ドアを開けて、すぐ左側のいちばん奥まったベッドの患者だけがひとり、真っ白な補田をかぶりながら寝入っていた。それが向井さんだったのである。

この病室の患者みんなが同じけい肺患者と聞いたが……。



ベッドの上に身を起こして……

資本が犯した罪は重い

生涯通じてもともしね、もとのからだ
安心して療養できる制度を

肺活力乏し

これ以上はやせやうがないだろうと思わせるほど、やせてしまっているからだ。

両の頬骨だけがやいばにつき出ている反面、二つの眼は額の下に深く落ちこんでいる。またただでさえ高い鼻が、そのためにいつそうそり立っている。そんな顔だ。

悪い、か体調

訪ねていった日ベッドに寝こんでいた向井さんは、それでもやせ

入院できず

「自分がいけい肺にやられたなと知ったのは、いつ？」

答 え 昭和三十年。三十八

のときです。労働省が全国的に行

った最後の、炭鉱労働者検診にひ

つかりました。長い間掘進工と

して、四山鉱の坑内、おもに坑

道開削や切羽(探炭場)の掘りな

どをやってきました。

粉塵吸って

「ひどいことですが、あのころは、掘進といえば「ヤレ掘れ、それ掘れ」の石炭景気のときでは

あり、労働もまたひどかったでし

ょうね。」

答 え 率直にいうと穿孔す

るときなんか、どんなに目を開い

ていても、一メートル先は見えん

じゃったですね。石の粉をかぶっ

て仕事するもんだから、毎日全身

真っ白になっていました。それも

珪酸分を大量に含んだ岩盤の粉

塵。でも金になるためには、ドリ

フター(前掲機で、約六十キログ

ラムの重さ)に油を差して、こと

さら回転を早めて孔を繰っていた

ほど。

それに最初のころには防塵マス

クもなく、タオルで鼻と口を覆い

ながらの仕事でした。

あとになって、海綿のマスクが

出てきました。だけど、穴があい

ているので、粉塵は海綿を通して

はいって来る。「水を吸わせか

わってはいました。それまで

あたりまえに仕事をし続けてきた

わけでしたから。いよいよ休み始

めたのは、三十二年の一月一日か

らです。

入院?

答 え ではなく。幼い

子どもがいたし、食っていくこと

が先じゃったから。もともと安か

った賃金の、わずか六〇〇くらい

の休業補償では、入院など思いも

寄らないことでした。そんなから

だで、まず収入の道を考えるのが

第一。実際にその後、いろんな仕

課題は多い

「今、けい肺を含めてじん肺患者が、大牟田にどのくらいいるんでしょ？」

答 え 私たちの三池じん肺患者の会の会員が百十八人、それに不知火けい友会(木原恒雄会長)が三百五十人ほどです。ますます五百人近くはいるでしょう、きっと……。

「それにしても、ますますが大切。十分に気をつけてがんばって下さい。あなたのからだの状態が、まわりの諸団体にそのまま影響する面もありそうですから。」

答 え そういえば、去年一昨年入院すると同時に、被災者協議会が動かなくなりました。……。

「いろいろな活動が、向井さんの命をささえてくれる生き甲斐にもなっていることでしょうか。」

答 え それはもう確かに。

解説

じん肺(けい肺)とは、各種の粉じんを吸った結果、肺の働きがだめになってしまふ病気で、古くより鉱山労働者の間で、「よろけ」と呼ばれ、恐れられてきた病気です。百五十年前の記録でも若くしてまっ黒な痰を吐き、やせえて死ぬ鉱夫が多く、そのため多くの女性は、一生の間七人も八人も夫と死に別れなければならなかった、と書かれています。

この病気の恐ろしさは現在も変わらなず、いったんかかれば治療法は全くなく、どんどん進行してゆきます。

このじん肺の危険は、近代工業の中で減少するどころか、あらゆる職場に広がってきています。資本家が安く労働者を求め、補償金のかかる粉じんの発生抑制をさぼっているためです。

「低賃金で、そのころ炭鉱労働者は生活も苦しかったらうじ。

答 え 掘進をやれば、三年たつ賃金の、わずか六〇〇くらい

の休業補償では、入院など思いも

寄らないことでした。そんなから

だで、まず収入の道を考えるのが

第一。実際にその後、いろんな仕

事にもならなかったし……。

「低賃金で、そのころ炭鉱労働者は生活も苦しかったらうじ。

答 え 掘進をやれば、三年たつ賃金の、わずか六〇〇くらい

の休業補償では、入院など思いも

寄らないことでした。そんなから

だで、まず収入の道を考えるのが

第一。実際にその後、いろんな仕

事にもならなかったし……。